

1

対談

神話

暑い

暗黒

自他

練り

2

イ

D

ア

原稿

3

エ  
ア

揃え

捨て

一  
う

ウ

イ

ウ

ア

人

勉

ウ

高

イ

ちなみに

浮世絵

(記述題)

3

1

イ

ビゴーに

3

ヨロツパの画家にえい  
キヨロツパの画家にえい  
はだれかをあたえた日本人  
という質問。

(同意可)

1	2	3	5	各2点×13=26点
3	8	その他	各4点×17=68点	6点
〈計〉100点				

1

- 1 あることがらについて、二人で話し合うこと。
- 2 昔から伝えられている、神を主人公にした話。
- 3 気温が高い場合は「暑い」、物の温度が高い場合は「熱い」というふうに書き分ける。
- 4 真つ暗で、光がささないこと。
- 5 自分と他人。「自他ともにみとめる」の形で自己評価と他人の評価が一致しているという意味になる。
- 6 「練り歩く」の形で、列を作って、ゆつくりと歩くことを表す。

2

- 1 「手押し車をおして」「郵便局に行く」のは「そのひと」で、そのことを「わたし」が「聞きました」という話の流れになる。「年金をおろしにゆく」ために「郵便局に行く」のだから、イの主語は「そのひと」になる。さらに、「そのひと」の行動について、「まとめておろしておけばいいのに」と「わたし」が「思った」のだが、最近になって、そうではないことに「気づいた」のである。
- 2 今の時点で、くく線のことばを知っておかなければならないというわけではない。この問いはくく線のことばのかわりにあとのことばをあてはめても意味が大きく変わらないか、たしかめてみるという問題である。知らないからといってかんだんにあきらめずに一つずつ確認していこう。「衝動買い」とは、買う予定がなかったのに商品を見ているうちにほしくなって買ってしまうことである。値段のことについてはまったく触れられていないし、「安物買い」をあてはめても意味が通じないだろう。「安物買い」は「安物買いの銭失い」ということわざの形で使われることが多いので、このことわざも知っておきたい。
- 3 1はエ、2はイ、3はウになる。「お札」は、ふつう「枚」以外のかぞえ方をしないだろう。
- 4 直後に「文章」とあるが、これでは「しめきり」と結びつかない。ただの「文章」だけでは、ふつう「しめきり」はないだろう。この段落と対比されているのが「一回の外出で…」の段落であることに注目してほしい。服の話のあと、「原稿も…」と書かれているのが、「しめきりは…」の部分に対応する。「原稿」は印刷や公表をする目的で書かれた文章である。
- 5 「たまに…」の段落は「まとめて」の例、「一回の外出で…」の段落は「少しずつ」の例になっている。⑤は直前の段落をさしているともよいし、段落の内容は、その前にある一文の例なので、その文をさしているともよい。⑥は素直に直前の文をさしていると考えればよい。
- 6 「アリ」と「キリギリス」を対比させればイソップの話の思いつくはずである。その場合、ふだんから努力をつみかさねるアリに対してキリギリスは楽をしているなまけ者という意味になることが多いが、ここの「キリギリス」は今という時間だけに集中する、という感じである。
- 7 「あれもこれも揃え」ないで「ぼちぼち( )よう」というふうに対比して整理すればよい。
- 8 これも、「いらぬものを捨てて」とは違って「あいかわらず( )られ」ない、と整理する。
- 9 すぐ前に「一年にただ一つ」とあり、内容としてはあてはまるが、条件に合わない。この段落全体を見ると、はじめに「一年に一つずつ買う」とあり、そのあとは例が書かれていたはずである。

3

- 1 Aはエ、Bはイ、Cはア、Dはオになる。ウの「擬人化された動物たち」という内容はどこにも書かれていない。じつはこれは、本文のすぐあとに書かれていた部分の小見出しである。
- 2 1は、「アニメ」と「イラスト」をならべている。2は、「ぜんぜんちがいます」と「ひとくりにされてしまう」の関係を考える。3は、「ひとくりにされる」「マンガの話題から、その「ルート」に話を発展させている。
- 3 すぐあとの段落に「昔は…から」と書かれており、そのあとでさらにくわしく説明されている。1は「描かれており」、2は「関係のないもの」に注目すれば容易に見つかる。
- 4 「どんな1コママンガなのか」と考えれば、次の文の「向き合って…」があてはまる。問い方が少しひねってあるので、きちんと確認して答えること。
- 5 aは、直接関係のない立場で物事のなりゆきを見てたのしむこと。bは、「現実」「写実的」という意味の「リアル」にすればよい。
- 6 「日本人がどのように映っていたのか」と考えれば、「ビゴアの描く日本人」について書かれている文があてはまることに気づくだろう。「一文」という条件にも注意すること。
- 7 このあとを読んでいけば、「ジャポニスム」「日本趣味」の代表が「浮世絵」だった、とはっきり書かれている。
- 8 「さて、ここでクエスチョンです」の次に書かれている内容を制限字数内で書けばよい。ただし、前半は「クエスチョン」の前置きと考えられるので、後半にしばって、必要なことばを落とさずにまとめてほしい。
- 9 アは、物語になっていくもの。イは、そのあとで「単純・軽妙な手法」「滑稽と誇張を主」と書かれている。すぐ前の段落で、「ブラックモンという人が…広めたことも…きっかけのひとつになりました」と書かれている。あくだけを見てみると、どれもあてはまりそうだが、文脈から考えることが大切である。
- 11 読んでいるときに、「ビゴアにそう決意させた」の「そう」が何をさすかわからないことに気づいてほしい。